



2024年2月期 第2四半期累計
決算説明会資料



2023年10月17日

株式会社 アークス 代表取締役社長 横山 清

2024年2月期 第2四半期累計決算について

1. 2024年2月期 第2四半期累計実績サマリ
2. 決算ブレイクダウン
3. 通期業績予想
4. 株主還元について

株式会社アークス
取締役副社長執行役員 古川 公一

1. 2024年2月期 第2四半期累計実績サマリ

デフレからインフレ傾向に変わる中、売上が増加する一方、販管費も上昇する環境下、経費コントロールを徹底し、前年・予算を上回る利益を確保しました。

| (億円) | 第1四半期 | 第2四半期 | 第2四半期累計 |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 売上高 | 1,429 | 1,493 | 2,922 |
| 前年比 | 103.3% | 104.4% | 103.9% |
| 予算比 | 99.9% | 101.5% | 100.8% |
| 売上総利益 | 361 | 371 | 733 |
| 前年比 | 104.9% | 105.9% | 105.4% |
| 予算比 | 99.8% | 100.5% | 100.1% |
| 販管費 | 321 | 332 | 654 |
| 前年比 | 105.1% | 105.4% | 105.2% |
| 予算比 | 98.5% | 99.6% | 99.0% |
| 営業利益 | 39 | 39 | 79 |
| 前年比 | 103.5% | 110.9% | 107.1% |
| 予算比 | 111.9% | 108.6% | 110.2% |
| 経常利益 | 44 | 43 | 88 |
| 前年比 | 105.8% | 107.8% | 106.8% |
| 予算比 | 117.3% | 108.9% | 113.0% |
| 当期純利益 | 30 | 27 | 57 |
| 前年比 | 104.7% | 105.4% | 105.1% |
| 予算比 | 117.5% | 105.7% | 111.5% |

物価高の環境下、売上は増収を確保。第2四半期累計としては過去最高額を記録しました。

カテゴリーマネジメントの推進等により値入れ率を改善し、総利益高は対前年比で売上増収率以上の増加となりました。

インフレ傾向の下、販管費は前年比で増加。但し、第2四半期累計期間も経費抑制策の徹底により、予算内でコントロールしました。

上記の結果、各段階利益は前年・予算を上回って着地しました。

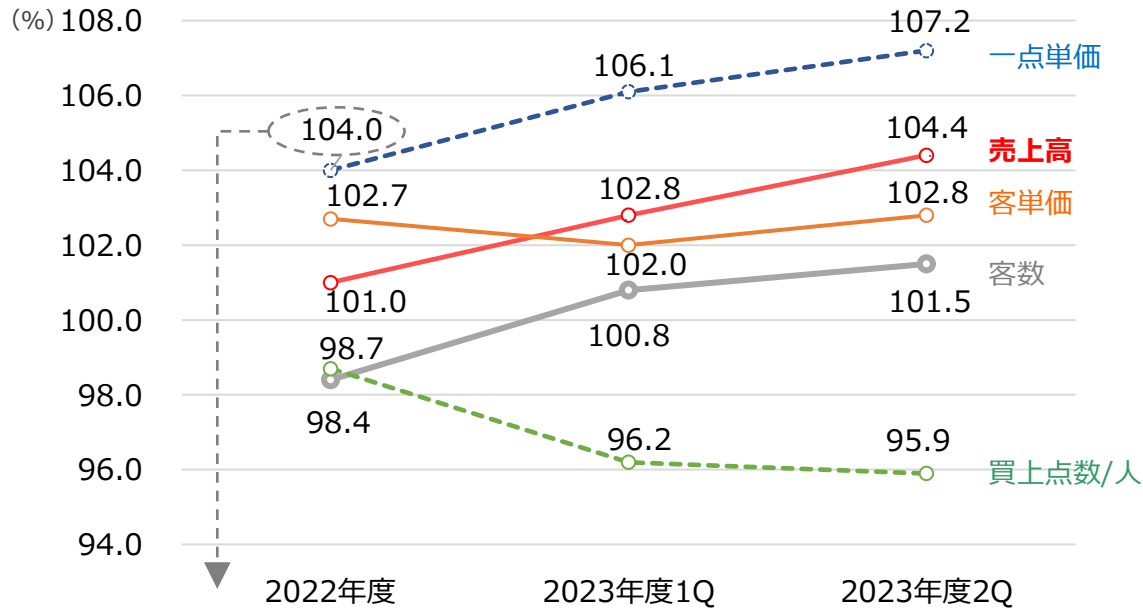
2. 決算ブレイクダウン

物価高による客単価上昇に加え、客数も堅調で、売上高は順伸。販管費額は前年比増加したものの、節電等の販管費抑制が奏功し、営業利益は増益となりました。

■ 既存店売上高について

- 買上点数/人は減少傾向が続いているものの、物価高に伴い一点単価は昨年度から引き続き上昇。結果として客単価は上昇
- 行動制限緩和による人流回復のほか、鶏卵不足や猛暑などへの迅速な対応を行ったことから、客数が回復

既存店売上高 構造分析(前年比)



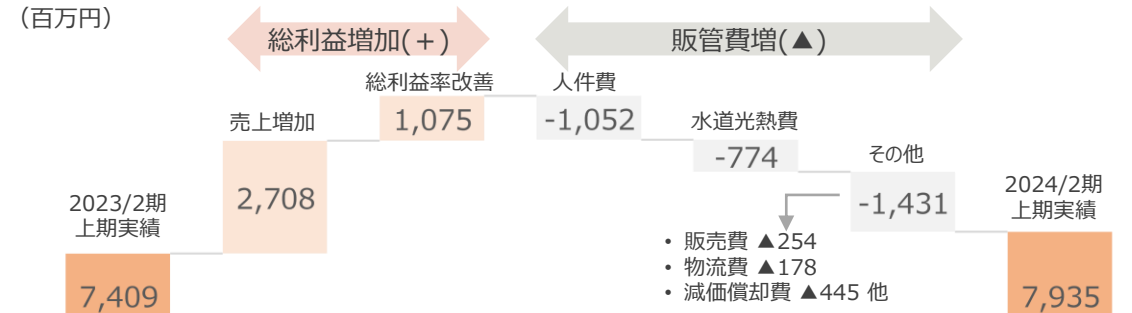
(参考) 2022年度 一点単価前年比推移

| | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q |
|---------|-------|-------|-------|-------|
| 一点単価前年比 | 103.2 | 103.1 | 104.2 | 105.7 |

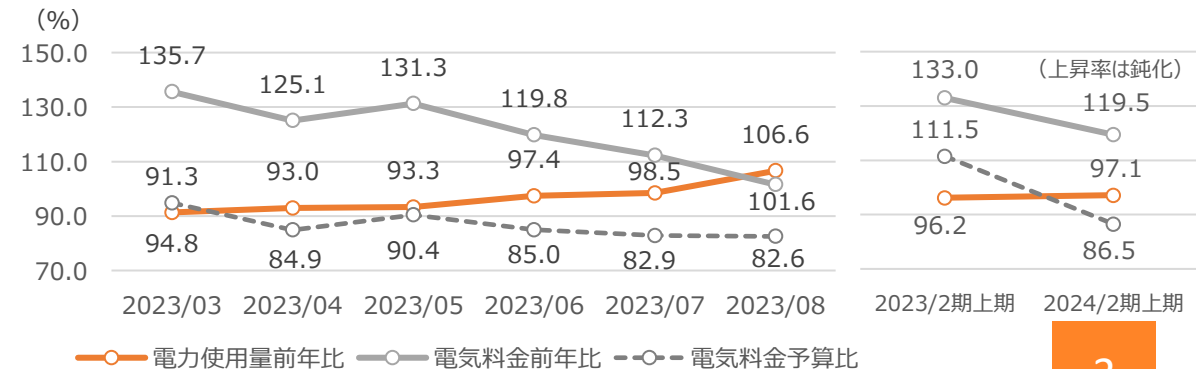
■ 営業利益増減について

- 左記の通り売上高は増収となり、カテゴリーマネジメント等の各種施策により値入れ率も改善し、総利益高は増加
- インフレ傾向の下、人件費や水道光熱費などの経費が上昇したものの、節電を中心に経費コントロールを徹底、増加幅を抑制し予算内執行。

営業利益増減要因(前年比)



電力使用量・電気料金(前年比・予算比)



3. 通期業績予想

取り巻く経営環境は今後更に厳しくなることが予想されますが、各営業施策と経費コントロールの実行により通期予算の達成に向けて取り組んでまいります。

| (億円) | 上期実績 | 対通期予想 進捗率 | 通期予想 |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 売上高 | 2,922 | 50.2% | 5,820 |
| 前年比 | 103.9% | | 102.8% |
| 予算比 | 100.8% | | - |
| 売上総利益 | 733 | 49.7% | 1,477 |
| 前年比 | 105.4% | | 104.2% |
| 予算比 | 100.1% | | - |
| 販管費 | 654 | 49.2% | 1,329 |
| 前年比 | 105.2% | | 104.7% |
| 予算比 | 99.0% | | - |
| 営業利益 | 79 | 53.6% | 148 |
| 前年比 | 107.1% | | 99.8% |
| 予算比 | 110.2% | | - |
| 経常利益 | 88 | 54.4% | 162 |
| 前年比 | 106.8% | | 98.5% |
| 予算比 | 113.0% | | - |
| 当期純利益 | 57 | 58.3% | 99 |
| 前年比 | 105.1% | | 100.0% |
| 予算比 | 111.5% | | - |

■ 下期に想定されるリスク

- エネルギー価格高騰による**電気料金・ガソリン価格の上昇**
- 最低賃金引き上げによる**人件費の上昇**
- インフレ傾向に伴う**一点単価上昇の一巡**（2022年10月から本格的な値上げが加速⇒売上高前年比へのマイナス影響）
- 賃金上昇を上回る物価高（実質賃金の低下）による**節約志向・選別消費の更なる高まり**（客数、客単価へのマイナス影響）
- コロナ「第8波」による**巣ごもり需要の反動減**

■ 下期取り組み

営業施策

- CGC商品の拡販・連携強化、新日本SM同盟商品の拡販・横展開
- カテゴリーマネジメントや各地域の売れ筋商品横展開等の施策推進
- オンラインショップ・ネットスーパーの拡大（Amazonとの協業）
- 新店2店舗、改装17店舗の実施
- 年末商戦強化(コロナ禍による行動制限緩和に伴う帰省客増加への対応)

経費コントロール

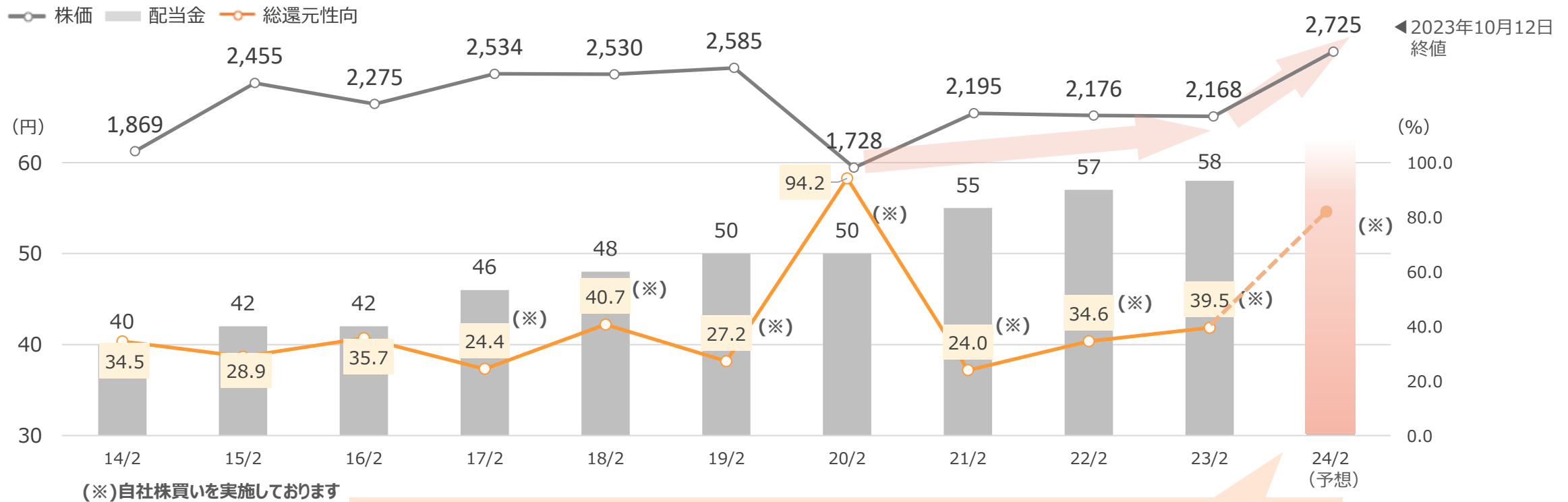
- 節電の取り組み継続
- 生産性向上の取り組み（DX/IT）
- 物流効率化（積載効率の向上、モーダルシフト他）
- 人手不足対応（ワークシェアアプリを活用した労働力の確保他）
- コスト削減好事例のグループ各社への横展開

4. 株主還元について

株主への利益還元について、以下の取り組みを実施しております。

- 2023年2月期末では減益のなかでも1円増配を行い、継続的な利益還元を実施してまいりました。
- 2024年2月期においては、200万株(50億円)を上限とした自己株式取得を実施中です。
- 2023年10月12日の株価は前年同日比+711円(+35.3%)の2,725円と堅調に推移しております。

■ 株価・配当金・総還元性向(※)の推移 (※)総還元性向 = (支払配当総額+自社株取得) ÷ 当期純利益 × 100



自己株式取得については、2023年9月末で**累計124.8万株／31.5億円の自己株式を取得済**であり、12月まで上限200万株（50億円）の継続取得を進めます。

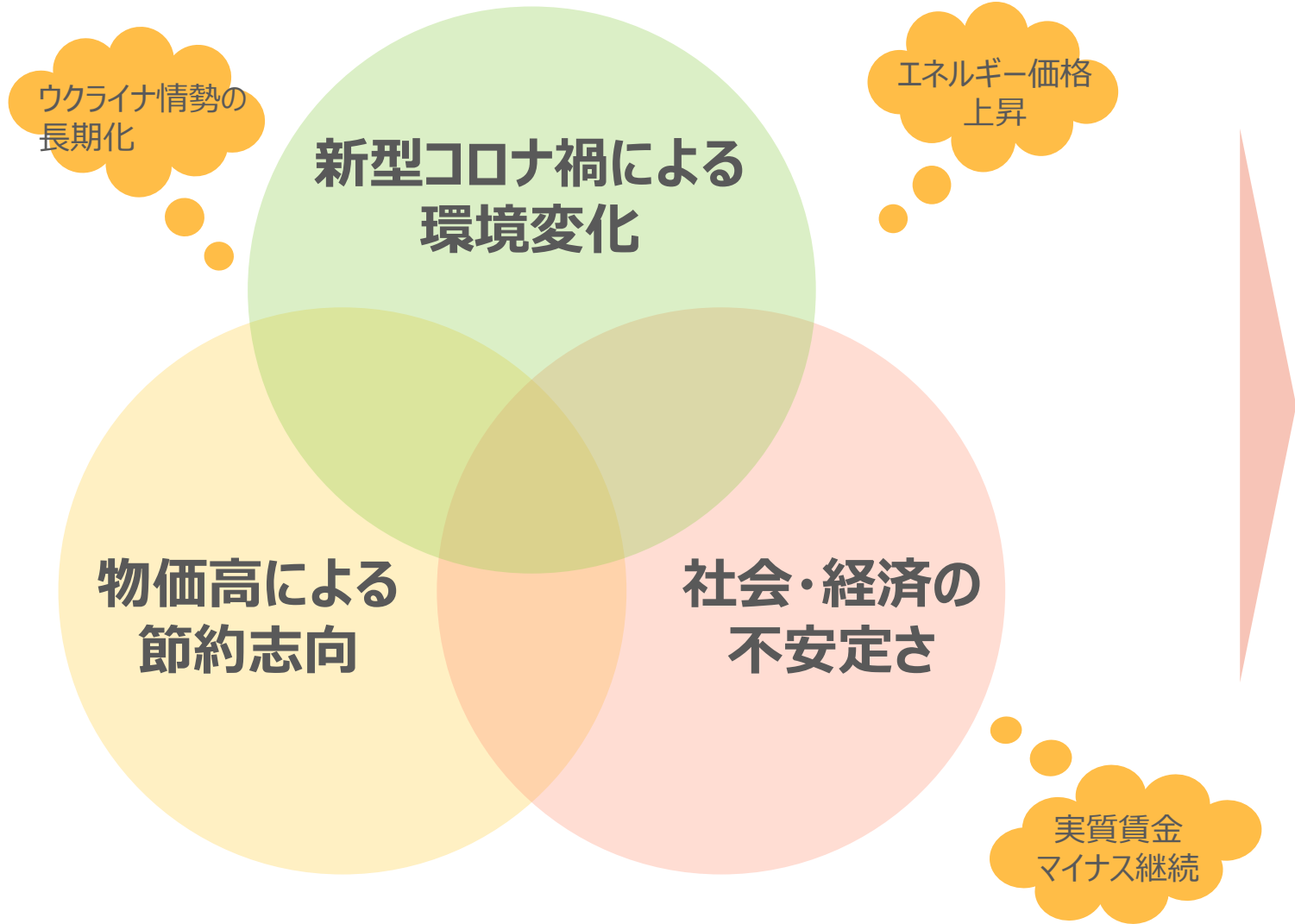
アークスグループの 取り組み

1. 我々をとりまく環境
2. 地域密着の「スーパーマーケット」の時代
3. 八ヶ岳連峰経営の更なる「深化」

株式会社アークス
代表取締役社長 横山 清

1. 我々をとりまく環境

新型コロナ禍を発端に、複合的な要因で消費者の行動・ニーズが変わり始めたことで「価値変容」が起こり、食品スーパーには新たな価値の提供が求められている。



お客様の「価値の変容」が進む



シグシージャパン 副会長 (北海道シグシー) 横山 清

「価値変容する世界」は、コロナ禍を契機として、世界が急激に変化している中で、私たちの生活にどのような影響があるのか、そして、私たちはどう生き抜いていくべきか、という問いかけから始まる。著者は、経済学、社会学、政治学、文化論など、幅広い分野で活躍する。本書は、著者の豊富な知識と経験に基づき、読者に新しい視点を提供する。また、著者は、読者の生活に役立つ情報を提供することを重視している。本書は、読者の生活に役立つだけでなく、読者の心を豊かにする。ぜひ読んでほしい。価格帯はコスト競争率が高い。

新しい価値に対応する

著者：外岡秀俊
定価：本体2,000円+税
発行：朝日新聞出版

CGCニュース
(2023年1月1日号)

2. 地域密着の「スーパーマーケット」の時代

スーパーマーケットの再編が進むなか、当社は地域性・独自性を活かし付加価値を創出すると同時に、徹底したローコスト経営を実行し、継続的な成長を実現していきます。



アークスグループの「八ヶ岳連峰経営」は標準化・平準化を推進するとともに **地域性を活かす戦略**

⇒攻めと守りの二刀流

①付加価値の創出（攻め）

地域密着型で安全・安心、鮮度の良い商品を提供し続ける

▼CGC商品販売強化



▼新日本スーパーマーケット同盟オリジナル商品



▲メニュー提案
クッキングインフォメーション

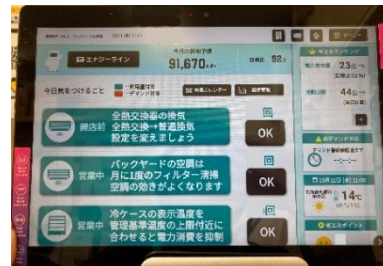
▼国産水産物の販売強化（国産ホタテの売り込み）



②徹底したローコスト経営（守り）

価値ある商品を低価格で提供し続ける

▼センターの活用によるローコスト店舗運営



▲エネルギー監視システムの利活用



▲コスト削減好事例のグループ各社への横展開



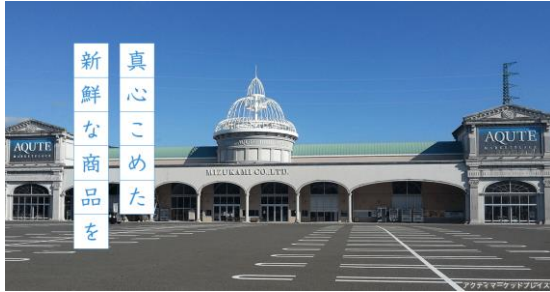
▼リーチンケース導入

3. ハケ岳連峰経営の更なる「深化」

「ハケ岳連峰経営」をさらに深掘りして、アークスグループの更なる成長とステークホルダーの皆様への価値を創出してまいります。

アークスグループ理念

(株)ベルジョイスと(株)みずかみが
経営統合 (2023年9月1日)



▲ アクティマーケットプレイス遠野店

推進
サステナビリティ

人的資本
戦略

Mind & Agreement
(心と意見の一致)

マーチャン
ダイジング

ロジスティクス
戦略

D
X
推進

アークスオンラインショップ

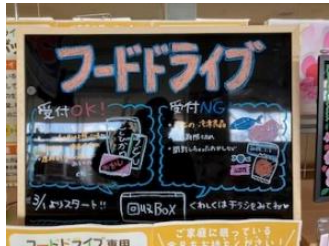
(株)ラルズ 拠点6店舗
(株)ベルジョイス

2023年6月よりスタート



サステナビリティの取り組み

■ 食品ロス削減の取り組み



■ 気候変動への対応



「TCFD提言」への賛同
及び提言に基づく情報
開示の実施
(2023年4月3日リリース)

■ 統合報告書 (日・英) の発行

▼ アークス統合報告書2023



英語版▶



An era of Value Transformation, Leveraging
"Yatsugatake Mountain Range Management"
that responds quickly to any changes, we will be
expanding the regional lifetime function and will
deepen stakeholder communication.

20 years of building the foundation as regional lifelines
The ARCS Group has been established in November 2003 with the merger of ARCS
Department Store and Yamagata Department Store. Working to create a strong
community with the area, and in April 2023, (ARCS) International Co., Limited
started operating in the U.S. with the launch of ARCS America.
In order for it to continue to be able and continue to operate as a company of the
future, it is necessary to be able to respond to changes in the environment and
to be able to respond to changes in the environment and to be able to respond to
changes in the environment and to be able to respond to changes in the environment
and so on. We will continue to work hard to create a strong community and to
deepen stakeholder communication.

Amazonにおける
「アークスネットスーパー」
今冬スタート予定



▲ 2023年10月3日
Amazonとの合同記者会見

ご清聴ありがとうございました

